

令和元年度 大阪府立むらの高等支援学校 第一回 学校運営協議会記録

日 時：令和元年7月1日（月）15：00～17：00

司 会：教頭

出席者：学校運営協議会委員【出席6名】

大阪国際大学（教授）、㈱モンアタッシュエ（代表取締役）、  
大阪知的障害雇用促進建物サービス事業協同組合（事務局次長）、  
北河内西障害者就業・生活支援センター（センター長）  
枚方市村野区（区長代理）  
本校PTA（会長）、

校長、事務局（10名）

傍聴者：本校生徒保護者（1名）

1 資料の確認および次第説明（教頭）

2 校長挨拶

昨年度に引き続き、どうぞよろしく申し上げます。本校近くの踏み切りで本校2年生の生徒2名が協力をして地域の方の人命救助にあたった。6月17日に枚方警察署で署長より感謝状を受け、複数のメディアにも記事が掲載された。

3 委員紹介（教頭）

4 事務局員紹介（教頭）

5 学校運営協議会実施要項・学校運営協議会運営計画について説明（教頭）

学校運営協議会実施要項は大阪府全体の学校運営協議会の実施要項に基づいてむらの高等支援学校の要項を作成している。本年度学校運営協議会運営計画の内容を確認した。

6 報告

- ① 保護者からの意見書の提出はなかった。
- ② 「平成30年度学校経営計画評価および令和元年度学校経営計画」について（校長）
  - ・平成30年度学校経営計画評価について昨年度1月に学校運営協議会で示したのから、失敗や成功の事例集の作成を追記、いじめ対策についての評価を「○」に変更、校則改訂についての評価を「◎」に変更、カフェアンケートについての評価を「◎」に変更、時間外在校時間の数値を追記した。
  - ・平成31年度学校経営計画について昨年度に説明したのから、「評価のあり方について継続的に検討」という文言を中期的目標から削除し、本年度の取り組みに移した。

・平成31年度学校経営計画の本年度の取り組み内容に関して、生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と安全で安心な学校づくり、キャリア教育の推進と高等支援学校教員としての資質向上、共生社会作りへの参画と情報発信、学校の組織力向上について説明をした。

③ 令和元年度授業時間割・教育課程について（教務部長）

令和元年度の1年生より総合的な探究の時間に変更した。2022年度より新学習指導要領に対応することになるが、教科については生徒の現状に合わせて検討していく。令和元年度の教育課程、校時、時間割について説明をした。

④ 進路指導の取組及び第2期卒業生の進路状況について（進路部長）

進路指導年間計画については昨年度からの大きな変更はない。

3年間の職場体験実習、職場実習、現場実習の流れ、各学年の進路学習会保護者向け進路説明会、進路三者懇談の予定について説明をした。

2期生の進路状況（34名卒業のうち30名一般就労、3名障がい者福祉事業所、1名職業訓練校 就職率89%）と1名の離職とその後の進路を報告した。

⑤ 授業参観アンケート（学校評価）集計結果について（支援部長）

4月27日に実施した土曜参観アンケートの集計結果について概ね肯定的な評価を得、特に学校施設・設備・清掃状態に関しては例年と比較してもより高い評価を得た。また、自由記述では「楽しい」という文言が多く見られた。

⑥ 令和元年度採択教科書紹介および令和2年度採択教科書選定状況（教務部長）

本年度および来年度の教科書は、生徒にとって分かりやすく、卒業後も役に立つ内容のものを選択している。実物を展示しているのでご覧頂きたい。

令和2年度採択教科用図書一覧等の書式を教育委員会に提出する。

## 7 協議

会長：まず「学校経営計画」から協議していきたい。昨年度最終の会議で示され、昨年度の委員からの意見を反映頂いている。平成31年度の学校経営計画を中心にご意見を頂きたい。

副会長：SSWが配置されたとのことだが相談は教員のみか。第3者の方が話しやすい場合もあるので、生徒が相談する機会があっても良いのではないか。

会長：SSWの相談の機会は何回あるのか。

支援部長：基本的に授業のある週ごとに1回ある。

会長：SSWの活用は限られているのか。

支援部長：基本的には教員から福祉機関との繋がりなどについて相談をしているが、SSWから要望があれば生徒に直接話す可能性はある。

校長：高等支援学校にSSWが配置されたが、支援学校から希望があればむらのの相談枠内で受けることができる。

委員A：スマートフォンを安全確認のため活用するとのことだが、スマートフォンを持っていない生徒にはどのように対応しているのか。

首席：約8割の生徒がスマートフォンを所有している。昨年の災害時には学校から生徒に連絡をして安否確認をした。スマートフォンを活用することで一時的な連絡を8割の生徒から受け、2割の生徒を優先して電話連絡することができる。

会長：災害時に活用するとのことだが、登下校時の事故や事件における安否確認についてはどうか。

校長：個別の生徒の安否確認については、システムを使わずに個々に対応する。

委員B：昨年度の協議会で出された意見が計画に反映されている。

委員C：手厚く指導されている。至れり尽くせりで生徒にとっても良いと思う。

委員D：様々な研修を実施し、障がいのある生徒への理解を深めており、保護者が安心できる環境を作られている。むらのの生徒が人命救助を行ったことが広く知られ、嬉しいことだ。障がいのある小学生の子どもを持つ知人が進路について不安を抱いていたが、むらのが小学校にオープンスクールの案内しているのはそのような保護者にとって良いことだ。

会長：計画には働き方改革についても触れられているが、先生方の時間外在校時間の状況はどうか。

校長：個々によって違うが、毎週木曜日には「はよかえろうデー」を設けて定時退勤を促している。毎月末に個々人に対して前年度と比較した時間外勤務時間表を示している。業務のスリム化を図り、継続して時間外勤務を減らす努力をしていく。

会長：先生方の仕事が多く、その中でも教頭先生の業務量が多いと思うが、状況はいかがか。

教頭：可能な限り19時までには退勤するようにしている。学校としての任務と働き方改革のバランスは難しいが考えていかななくてはいけない。

会長：安全確認など生徒のことを考えると勤務時間が増えるかと思う。むらの設立時には生徒が登下校時に事故を起こすのではないかと地域から意見があったが、生徒が人命救助をするに至ったことは大きいことだ。

校長：人命救助についてメディアに掲載された後、複数の肯定的な内容の連絡を受けた。

会長：校外の方からも声を掛けて頂くことは、生徒の自己肯定感にも繋がるのではないかと。時間外勤務を減らしながらで難しい面もあると思うが、更なる発展を願っている。経営計画、時間割、2期生の進路などについて意見はあるか。

委員A：就職率がすばらしい。

会長：離職をした卒業生について、就職前に離職の心配はあったのか。

進路部長：3年時に実習でその職場を2度経験し、職場、本人ともに納得して就職が決まったが、職場のシステムに上手く乗れなかったり、本人の勘違いがあったりで上手くいわずに離職に至った。その後は就労移行に通所している。

副会長：実習は短いので我慢できるが、就職後は誰かに相談しながら続けられたら良いのではないかと。サポートをする保護者に企業の様子等知って頂く必要があると思うが、保護者が企業を見学する機会などはあるか。

進路部長：企業の施設見学会を実施している。

副会長：障がいのある方がどのように働いているかを知ることにより良いサポートができる。

委員B：1名離職したが、就労移行に繋がられたのは良かった。叱責された時の対応の仕方は課題であると思う。

委員D：叱責を受けた時の対応を示す必要がある。保護しすぎると力がつかない。より良い生活を送るためのスマートフォンの活用方法を示すべき。

会長：「楽しい」との文言がアンケートの中に出てきているが、高等支援では楽しいだけではやっていけない側面もある。

委員C：個人差はあるが、学校、保護者、生徒間でうまくキャッチボールをする必要がある。

会長：施設に関しては図書室が充実してきたが、施設の充実化についての状況はどうか。

校長：施設に関しては予算を考えなくてはならない。教育庁には施設、設備の充実化を訴えている。ロータリークラブより物品寄贈を受けている。教育庁から職業教育に関する予算も出ている。

会長：枚方支援と施設を併用している部分について課題はある。

校長：今日も卒業生がカフェに来店していた。出身校を頼ってくれていることを嬉しく思う。近隣の方もカフェを利用して下さっている。

会長：今回の協議を踏まえて、第2回、第3回に繋げていきたい。

8 校長挨拶：ご多用の中、出席頂き、ありがとうございました。1年間宜しく申し上げます。

9 事務局より（教頭）

記録をまとめるので確認して頂いた後、ホームページにアップする。

次回は10月21日（月）15時～17時を予定している。

10 閉会（教頭）